



からしだね

2017年3月号
(525号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/index.htm>



本号の記事の主題など

中村克徳 神父の巻頭言は「四旬節をどのように過ごすか」…………… 2

大阪城ホールで挙行されたユスト高山右近の福者列福式の模様、列聖請願運動の歴史と高山右近の追放・流刑の紹介です…………… 3-4

映画「沈黙」(遠藤周作原作)を鑑賞しての感

想や俳句の作品 ……………4-6

ルイビルのデニス神父様からの便り…………… 6

教会図書コーナーから新着本の紹介 ……7

毎号載る評議会議事録などには表示していません

巻頭言

四旬節をどのように過ごすか

中村克徳 CP

先日の二月七日、大阪城ホールにてユスト高山右近列福式が執り行われました。池田教会からこの御ミサに列席された方や、YOUTUBEの動画配信、テレビニュースで式の模様をご覧になられた方も多いと思います。参列した一万人が一体となった荘厳な列福式は、三時間近くに及んだ式の長さを感じさせない大きな感動を人々に与えてくれました。その感動は、右近という一人の武将が、自らの人生を懸けて貫き通した彼の信仰の熱意から生じたものです。すべてを捨てて十字架を担って生きる道を選んだことで、彼は偉大な大名として名を遺す代わりに、福者として神の永遠の命に招き入れられました。この列福式を機会に、わたしたちも自分自身の信仰を見つめなおしたいものです。

さて、今年三月一日の灰の水曜日からは四旬節が始まります。四旬節と聞くと重苦しい雰囲気を感じる人もおられることと思います。世間では年度末で仕事も忙しく節制どころではないのに、教会が節制と善行を呼び掛けるのは重荷だ、早く復活祭が来ないものかと、ぼやきの一つも言いたくなってきます。そのような気持ちは誰でも一度は心をよぎるものです。また、日本の社会ではキリスト教への関心が薄いこともあって、予想外の出来事に悩まされることもあります。

わたしがまだ社会で働いていたときのことで。わたしは営業職だったのですが、ある年の聖金曜日に接待が入りました。大切なお客様ということもあり、断ることはできません。この日は灰の水曜日と同様に、大齋と小齋が定められています。大齋とは、一日の食事のうち一食を抜いて、一食を日頃の半分に減らし、一食を通常通りに食べて良いという決まり事です。小齋とは、肉類を食べないことです。わたしは朝と昼の食事をほどほどにして夜の接待に備えました。会食の料理は肉がたっぷり入った美味しそうなおちゃんこ鍋です。一番の若手

が自分だったため、肉を食べたい思いをこらえつつ、ひたすらお客様への盛り役に徹することにしました。会食がある程度進んだ頃、お客様がわたしにこう言いました。「君は見上げた男だな。さっきから野菜ばかり食べているじゃないか。どれ、器を貸しなさい。今度はわたしが盛ってあげよう」。その後のことは皆さんの想像にお任せします。

この出来事から、わたしは四旬節に最も大切なことは何かを考えるようになりました。四旬節は、四世紀頃には悔い改めの期間として定められています。四十日という日数は、モーセがシナイ山にいた四十日間など、旧約聖書の様々な箇所から取られています。最も大切なのは、イエス様が洗礼を受けた後に荒れ野に退き、祈りと断食のうちに四十日間を過ごされた出来事です。ヨルダン川で洗礼を受けたイエス様は、すぐに宣教を開始せず、まず祈りに通して父なる神の御心は何かを知ることから始めました。その長い断食の終わりには、サタンからの試みを受けられています。人間として極限状態に陥った時に訪れる甘い誘惑。イエス様はその一つ一つを、聖書のみことばと明確な意思をもって退けています。わたしたちは、このイエス様の姿から四旬節の精神を学ぶ必要があります。

四旬節中にしばしば呼び掛けられる回心とは、日頃の言動を反省して失敗を避けようとするだけではなく、生き方そのものを神様に向けて歩み直すという意味です。自分は神様に向かって歩んでいるつもりでも、実際には脇道にそれていることはよくあることです。この四旬節を通して、神様の御心とは何か、イエス様と共に歩んでいるかを識別するため、祈り黙想する時間を取ることができれば、いまなすべきことは何かを理解し、喜びに満ちた復活祭を祝うことができるでしょう。神様の恵みが皆さんの上に豊かにありますように。

3月のガラスケースのことば

愛する人はすべて神から生まれた者で神を知っています。

愛さない人は神を知りません

ヨハネ1 4:7-8

ユスト高山右近が福者に列福

2月7日 大阪城ホールにて

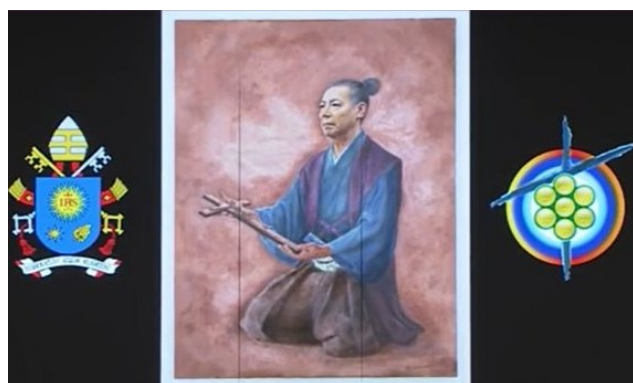


教皇フランシスコ代理のアンジェロ・アマート枢機卿（教皇庁列聖省長官）による主司式によって列福式ミサ

が行われ、70年に及ぶ列福調査に基づいた東京大司教ペトロ岡田武夫師による列福の請願と列福申請代理人イエズス会司祭ヴィットヴェル師によるユスト高山右近の略歴紹介の後で、神のしもべユスト高山右近の列福が教皇書簡を朗読することによって宣言されました。（写真上）

その直後、ホールの正面上部に十字架上のキリストを持つユスト高山右近の肖像画（長崎の画家三牧樺子作）が除幕されました（写真下）。肖像画の左のマークは教皇フランシスコの紋章であり、右のマークはユスト高山右近の列聖運動のシンボルマークです。また、宣教師を助け、保護し、マニラにて死に至るまで主をあかした殉教者の記念日は2月3日に定められました。

ユスト高山右近の略歴を紹介したヴィットヴェル師は一昨年6月にCBCJ列聖推進委員会などが東京で開催したユスト高山右近帰天400周年記念シンポジウムにおいて「現代の教会と社会に対する右近の殉教の指針の重要性」の題で講演されました。列福式における右近の略歴は冊子「列福式ミサ」に全文が収録されています。



「ユスト右近殿おめでとうございます。

やっとなしたね」

大山利

右近殿列福式の投稿が募集されていまして、少し思い出など書いてみました。昔から運動が行なわれていたのに余り知られていなかったのも、簡単な紹介を兼ねています。

50年以上前に受洗しましたが、当時既に右近殿の列福運動がありました。毎年、厳冬2月上旬の日曜日に、カテドラルで祈願ミサが行なわれました。

受洗して間がなかったので、右近とはどんな方か分からなかったが、司教様が推進されるから、何か良いことだろうと思い、出来るだけミサに与りました。生涯の概略は理解出来ました。しかし、余り燃えませんでしたね。

同時代の切支丹の精鋭たちは、ほとんど殉教者で、波瀾万丈の生涯の末に致命（例えば福者ペトロ岐部）。一方、右近殿は、少しドラマ性に欠けていて印象が薄い。こちらも若気の至りでパフォーマンスの派手な方に気をとられました。右近殿は、生真面目な武士で迫害に耐えながらも、天寿を全うした……そんな風を感じたのです。

ところが、当時、運動を推進していた信徒たちのファンの熱意には、今でも頭が下がります。ある人は、祈願ミサが始まる前に、お誘いの葉書をくれました。ある年など、厳寒のカテドラル正面玄関で、当時は珍しかった「貼らないカイロ」を参加者に配布、恐縮しましたね。

その頃の人の熱意が、最近、また花開いたのです。右近列福運動には3つ山がありました。故溝部脩司教が、HP「心のともび」（注1）で述べられています。

第一の山は、右近がマニラで死去した直後、現地で始まったものです。これは日本の禁教令、鎖国のために立ち消えに。第二は故田口芳五郎枢機卿のもとで1956年初めて開かれた列福調査委員会に始まります。しかし、この時は余り盛り上がりせず、枢機卿が1978年に死去されると、運動は頓挫しました。第三の山は2008年に188福者が列福されて以降です。司教団の強力なテコ入れもあって列福運動は再燃。田口枢機卿の時代に推進した人たちの熱意も再燃しました。

そんな中の一に、私と懇意な女性がいました。今年80歳を上回った方です。再燃した列福運動で右近クラブに入って各種行事の世話役をされました。またPR用のタオルを作られました。五百

枚ずつ二回、合計千枚。私も十枚頂いて池田教会の、数人の方にも差し上げました。費用十数万円は自腹を切られました。

また彼女は奈良・富雄教会の所属ですが、日曜学校の遠足の際、バスの中で子供たちに、自作の「右近クイズ」(注2)を配布。今回の列福でローマに提出された「請願書」は、1972年、田口枢機卿時代に作成された基礎資料を改善したものです。一から作り始めるとすれば多くの労力と時間が必要だったでしょう。過去に列福に熱心に取り組まれて、亡くなられた方も、田口大司教様はじめ多々おられます。きっと今回の列福成就にお喜びでしょう。

「にわか阪神ファン」という現象があるそうです。優勝が迫ると、今までの巨人ファンが急に阪神ファンになることです。

私のような微温的右近ファンだった者も、列福関連の記事を読んで、にわか熱心なファンとなりました。加齢で忍耐する徳が分かってきたのです。たとえば溝部司教も仰っているように「金沢時代の右近は、使徒職に励んだとはいえ、かなりしんどかったろう。前田家という上司に仕えながらだから、『賢明』の徳が必要だった」と。

現代も会社内などでは多くの『隠れキリシタン』がいます。右近のように、上司や同僚に気を遣いながら『賢明』の徳をフルに発揮、生き抜く必要があります。

こんな『にわか右近ファン』も、古参の方は許してくださいでしょう。右近殿の徳を真似して、自分の信仰を深めれば神様のみ旨にかなうでしょう。

注1 <http://tomoshihi.or.jp/tv/mizobe.html>、または、<https://www.youtube.com/watch?v=SrcwMue7p-4>。

注2 ? 右近クイズを学ぼう!

1.右近の幼名はどれでしょうか

- A. 彦一 B. 彦三郎 C. 彦五郎
(中略)

6.右近の父と右近は家臣や領民、特に貧しい人たちにとても優しくした。なぜでしょうか。

- A. 立派な城主と思われたかった。
B. 神さまの前に人は平等で、キリスト様を見習って生きた。
C. 豊臣秀吉やまわりに大名にもキリシタンであることを自慢したかった。

(中略)

☆以上10問正解の人には、ミニ・プレゼントを差し上げます。

ユスト高山右近列福記念講演会

1・22 研修委員会主催

1月22日に高槻教会所属の岡本稔氏は、史実に基づいて、高山右近(1552~1615)が12歳で受洗して得た霊名・ユスト(義の人)が示すように多くの人びとと共に、キリシタンとしてその生涯を歩まれたことを丁寧に紹介されました。

岡本氏の語った460年前から始まった右近の63年間の生涯を聞いて抱く印象は、近代日本の幕開けの時期を象徴するように右近は光り輝きますが、封建体制の権力者によってその多くを奪われ、追放され、その光を減じたことでした。

マニラでの殉教後400年が経過した今、再び、輝きを増した右近が時間を超えてわたしたちに語りかけているのをしっかりと受け止めましょう。

小説「沈黙」のリメイク映画に 感想や俳句が投稿されました

1614年に、家康の厳命により、ユスト高山右近らのキリシタンと宣教師たち総勢350人が九州木鉢の港から5隻のジャンク船に押し込められてマカオとマニラへ追放されました。その時、日本の各地に潜伏して残ったイエズス会のフェレイラ司祭たち37名は江戸幕府による更なる弾圧の中で宣教を続けたといえます。

幕府は、しかし、司祭やキリシタンを惨たらしく罰する方針から司祭の棄教を迫るやり方に切り替えて、キリシタンの根絶やしを謀りました。他方、かのフェレイラ司祭の棄教の知らせを聞いた遠く離れたローマでは、その不名誉を雪辱するために、1635年に、3人の若い司祭を迫害下の日本へ潜伏布教を行う計画を立てたのです。

その計画の立案から始まる歴史小説「沈黙」を遠藤周作が世に出した1966年には、「沈黙」は大きな反響を呼び、5年後には篠田監督によって映画化され、51年後の今年、米国の巨匠スコセッシ監督によってリメイクされました。1月21日から一斉に上映された「沈黙」では寒村の農漁民が殉教するのに接して苦しむ若い司祭と神との間で他に較べようのない対話が続けられます。広報委員会へ寄せられた四人からの投稿を掲載します。

映画『沈黙』を観て

藤阪

2月13日(月)映画『沈黙』の鑑賞会が「サイコロの会」の呼びかけで箕面シネマにて催された。畠神父様他15名が集まりました。

『沈黙』についてはすでに映画を観られた方もおられるでしょうし、何よりも遠藤周作の本が昭和41年3月に発刊されており読まれた方も多くいらっしゃると思います。また、20～30年前には篠田正浩監督での日本映画での『沈黙』も上映されており、(残念ながら私は観ておりません)。私は昭和41年10月に池田教会の門をたたきました。小説の発売直後でもあり、青年会みんなで本を読み分かち合いをした記憶があります。

物語については、皆さんある程度知っておられる事でしょうから詳しい説明は省かせていただきますが映画の概略としては、次のとおりです。

舞台は17世紀、江戸初期の長崎。激しいキリシタン弾圧の中で棄教したとされる師(フェレーラ神父)の真実を確かめるために日本にたどり着いたポルトガルの若き宣教師二人。その目に映った想像を絶する日本人信徒達の苦悩と惨状。西洋と東洋の断絶を超え、人間にとって本当に大切なものは何かを問いかける。…信仰を貫くか、人を救うのか、という究極の選択にまつわる重厚なドラマでした。

監督マーティン・スコセッシ(カトリック信者)は28年前から映画化をあたためてきました。「沈黙」は信仰そのものです。彼は文化的に異なる世界観、生活観の違い、国による信仰の違いを描きたかった。作家、遠藤周作もその事柄に心を砕いていました。日本人には馴染まないカトリックという洋服を日本人に合った和服に仕立てあげる事。このように二

人の認識は一致していたのです。

この映画を観て私なりに感じた三つ事。

①. 日本人信徒キチジローはいつでも、何度も、告解(コンヒサン)を求める。

池田教会では黙想会に於いて若干名が告解の為の列に並んでいる程度とは対照的。

②. 棄教したとされるフェレイラ元神父のことは、「日本ではキリスト教が根付かない。泥の中では根が腐ってしまう。」

現在韓国ではキリスト教信者数は目覚ましいものがある。2010年統計では360万人(7.4%)、2017年では500万人に近づくとみられるのに、一方の日本では40万人を超えた位がこの20～30年変わらない。

③. 踏み絵を踏む場面でのキリストのことは、父的な「踏み」と母的な「踏むがいい」の二つの表現、があるかと思います。小説発刊後、後者は“弱いキリストのことは”としてクレームがついたと記憶している。

最後に映画では描かれていないが、原作のクライマックスの節を記して映画『沈黙』の感想文とします。

その時、踏むがいいと銅板のあの人は司祭にむかって言った。踏むがいい。お前の足の痛さをこの私が一番よく知っている。踏むがいい。私はお前に踏まれるため、この世に生まれ、お前の痛さを分かたため十字架を背負ったのだ。

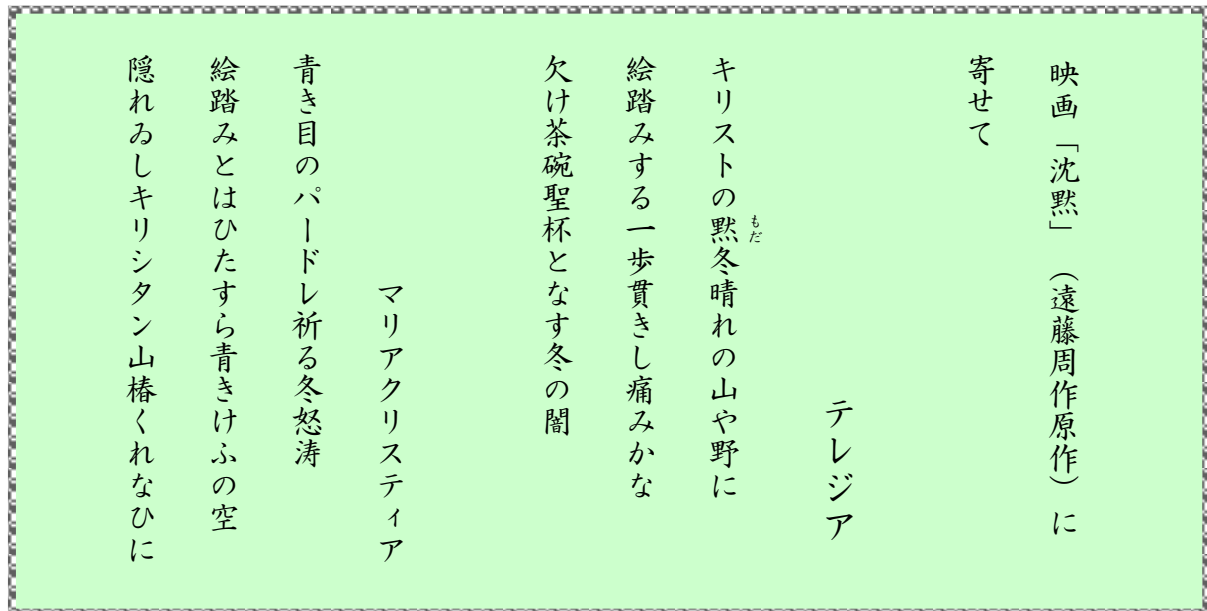
こうして、司祭が踏み絵に足を掛けた時、朝が来た。鶏が遠くで鳴いた。

映画「沈黙」について

延原

映画は虫のすだく声や蝉の鳴き声、波音で始まり、終わる。わたしたちの住む大地から静かに聞こえてくる命の音。自然はあくまでも美しく、ときに猛々しい。そこで悲痛な人間ドラマが繰り広げられる。なぜそんなことに? 異質の文明の衝突で、ぎりぎりど軋轢が生じた。殉教を覚悟で海を渡ってくる司祭。どんな迫害にもめげずパラインを信じ続ける村人たち。新しい秩序の下で生きようとする者の増殖を何としてでも食い止めたい体制側。そこで体制側はありとあらゆる残虐な手段を用いて、絶滅を

計る。ある者は殉教し、ある者は転び、ある者は地下に潜って、体制側は勝利を収めた。しかし、ロドリゴ神父の手に握られた粗末な十字架は燃え尽きて、小さな根が3百年近くも生き続け、体制が滅んだとき地表に現れたのだ。その芽は大木となり、森の一部となった。それは神の摂理だったのだろうか。神のご計画だったのか。いや、そうではない。沈黙する神を信じ続けた人たちが、か細くとも、しなやかで強靱な糸のように、信仰をつなぎ続けたのだ。



ルイビルのデニス神父からのメール

久しぶりにデニス神父様から近況を伝えるメールが送られて来ましたのでお知らせします。神父様の住んでおられるルイビルをネットで検索して見ました。「ルイビルメガキャン」という人気の観光スポットがあり、クリスマスシーズンは洞窟にロウソクでクリスマスイルミネーションが施され圧巻だそうです。海外旅行を計画されている方は是非訪れて(ついでに)神父様をお訪ねください。

池田教会の皆さんへ

この暮らしについて、とりたてて書くようなことはあまりありません。朝、ミサにあずかり、食事をし、そのあとはのんびりしています。ここへ来た当初の一カ月間は軽度のリハビリをしましたが、理学療法士がリハビリ卒業とすぐに告げたので、驚きました。歩行器を使って安全に動き回れるので、リハビリはもう必要ないと言うのです。ここのリハビリはそんな程度です。それからは自分で運動をしています。

ここでどんな人たちが暮らしているか教えましょう。毎月、その月に誕生日を迎える人たちのために、ケーキとアイスクリームのパーティが催されます。十一月のパーティでは四十人ほどが集まりました。私以外に歩行器を使っているのは一人だけ。ほかの人たちは全員、車いすでした。

この施設は「セクレッド・ハート・ホーム」という名前です。御受難会修道院から十キロほどのところにあります。一週間前、ランチに招かれ、初めて御受難会修道院へ行ってきました。司祭へ叙階される前の二年間、学んでいたところなので、そこにはたくさんの思い出が詰まっています。

このホームでは百人以上が暮らしています。トイレ付きの個室になっています。食堂は四室。私の食堂では四十人が食事をします。食事はおいしい！ 毎日三種類のメニューから選べます。それにコーヒーがある！ 朝のコーヒー！ 昼のコーヒー！ 夜もコーヒー！

デニス神父より

(メールの原文)

There isn't much to write about my life here. Attending Mass in the morning and meals, after that loafing. The first month there was light Rehab therapy but I was surprised when the one in charge told me I was graduating. I could get around safely with a "walker" there was no more need for therapy. So that is the level of therapy here. After that I am on my own for exercise.

To show the kind of people here: every month there is a cake and ice cream party for those having a birthday that month. At the party in November there were about forty people. Beside me there was one person with a walker. All the others were in wheelchairs.

This is called Sacred Heart Home. It is about ten kilos from the Passionist monastery. A week ago I went to the monastery for the first time for lunch. The last two years of study before ordination to the priesthood were at this monastery so it holds many memories.

There are more than a hundred "residents" here. Single rooms with washroom. Four dining rooms, forty people in my dining room. Meals delicious! Every day a menu with three meals to choose from. And coffee! Morning coffee! Noon coffee! Evening coffee!

新しい本がとどきました

新刊図書をカール記念館1階ホールの新着図書コーナーに置いてあります。

「キリシタン大名 高山右近とその時代」

川村信三 著 教文館刊

「教皇フランシスコ キリストとともに燃えて(偉大なる改革者の人と思想)」

オースティン・アイヴァリー著 宮崎修二 訳 明石書店刊

「教会の聖人たち」上巻

池田敏雄 編著 サンパウロ刊

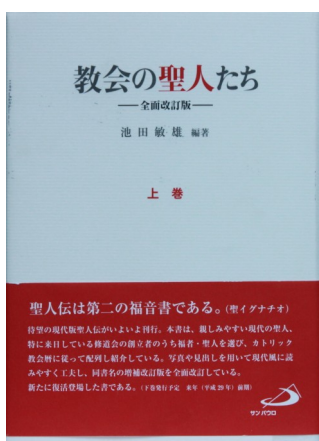
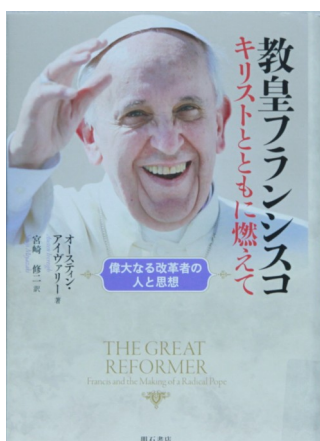
「教皇フランシスコとともに日々の内省」

ケヴィン・コッター 編 里見貞世 訳 女子パウロ会刊

来年度の教会図書係を募集します

限りある予算ですが、神父様と一緒に話し合っ池田教会の図書コーナーを充実させるお仕事です。図書コーナーの整理、レイアウトの工夫、「からしだね」に図書の紹介などをお願いします。本好きな方、興味ある方はお声を掛けて下さい。

研修委員会



今年もドレミの会をよろしくお願ひします！

今にも雪の降りそうな寒い寒い1月14日「ドレミの会」は新年餅つき大会を行いました。マリア幼稚園の暖かな協力で、無事に16キロのお餅を2時間でつき上げ、おいしくいただき、沢山集まったハンディーを持った子たちと保護者の皆さんは新しい年を明るく元気に迎えることができました。

また、2月11日には、教会で行われた「熊本地震のためのチャリティーコンサート」に賛助出演させていただきました。彼らは、物おじすることもなく大きな声で歌い、元気に踊り、大きな拍手をいただきとてもうれしそうでした。皆にとって、チャリティーコンサートに協力することは、とても意味のあることでした。

先日池田市で行われた絵画展で「ドレミの会」の会員の子が二人、総務大臣賞、特別優秀賞をいただきました。このようにハンディーがあっても人として認められ、自信をもって生きていく機会が与えられることは大きな喜びであり、保護者の皆様にとっても希望の持てる出来事です。

私どもスタッフは池田教会の神父様をはじめ、

皆様の応援にいつも勇気づけられ感謝しています。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

ドレミの会

村嶋伸

日曜学校新しい入学者を募集

対象者は、幼稚園の年中から小学生、中学生、高校生です。

日曜学校と一緒に聖書を読んだり、祈ったり、歌ったり、遊んだりしませんか？

また、初聖体準備クラスは2年生を対象にしていますが、それ以上の年齢でまだ初聖体を受けておらず、希望されるお子さんも参加可能です。新しい仲間参加を心待ちにしています。どうぞ周りのお子さんをお誘い下さい。

お泊り会も月に一度あります。小学生は第四週目の土曜日、中高生は第二週目の土曜日です。ご相談、問い合わせは日曜学校サポーターまでお願いします。

平成28年度の青年会の活動

- 4月 youcat、キャンプと教会遠足の打ち合わせ。
- 5月 youcat、キャンプの打ち合わせとプログラム作成。遠足本番(五月山公園)
- 6月 キャンプの打ち合わせとプログラム作成
- 7月 キャンプの打ち合わせとプログラム作成。
- 8月 教会キャンプ本番。
- 9月 youcat、クリスマス会とバザー打ち合わせ
- 10月 youcat、クリスマス会打ち合わせ、バザー本番(ホットフランク)
- 11月 クリスマス会打ち合わせ、教会遠足(黙想の家)
- 12月 クリスマス会当日
- 1月 聖マリアの無原罪教育宣教修道会で勉強会
- 2月 youcat
- 3月 youcat

この一年間教会行事に携わり、日曜学校と関わることが多かった一年でした。来年度も大人と子供達とのパイプ約として関わって行けたらいいと思っています。

青年会

宝塚黙想の家から

黙想会のお知らせ

■日帰り黙想会

3月16日(木) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父

3月17日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父



黙想会、費用等のお問い合わせは

「宝塚黙想の家」まで。☎0797(84)3111

表紙の絵について

第5ページの本文にもありますように、ユスト高山右近の列福式で除幕された座像の上半身像です。その半身像が列福式参列者にも配られました。元の座像は長崎の画家三牧樺子さんによって描かれました。

2/11のチャリティ・コンサートが 地震被災地などへ献金

2月11日(土)に聖堂で開かれた熊本地震の被災者支援を主目的にかかげてのチャリティ・コンサート(第4回Fantastic Concert for You)について出演者の一人、鋤納さんから池田教会の会場提供と「ドレミの会」の賛助出演に対しての謝辞と献金についての報告がありました。

ご来場の100名ほどの皆様から頂いた献金(44,431円)の全額を社会活動委員会に委託して地震被災地・熊本などへの寄付とされるということです。



編集後記

スコセッシ監督の映画「沈黙」をもうご覧になりましたか？

遠藤周作の原作とは違って、この映画の中のイエス様は「それでいい、踏み絵を踏んでもいいんだよ」と何度でも言って下さる、どこまでも優しい神様です。エンドロールでは虫の声と波の音が静かにいつまでも流れ「私は確かに日本人だ」と自分のアイデンティティを再確認させられるような終わり方でした。ただそれなら踏み絵を踏まず最後まで拷問に耐えて死んでいった人たちの死はどうなるの…という疑問が残りますが？！

畠神父様が学生時代初めて読破された英語の本が「Silence」(沈黙の英語版)だったそうです。デニス神父様は結婚講座を受ける若いカップルに必ず「私のイエス…日本人のための聖書入門」(遠藤周作著 祥伝社文庫)をプレゼントされていました。ちなみに、私に受洗を決心させてくれたのもこの「沈黙」でした。遠藤周作という人はいろんな人にいろんな形で影響を与えているのですね。おすすめの映画です。是非御覧ください。

とんとんみー